

## 韓 国 語

### 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

本年度より「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」という。）となり、「英語」では、第1問の発音・アクセント問題や第2問の文法・語法、整序英作文問題はなくなり、全て読解問題となった。その要因の一つとして、大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）で課題となっていた、より実践的なコミュニケーション能力を重視した力を測る問題にするための試みがあったのではないだろうか。共通テストもセンター試験同様、平成21年告示の高等学校学習指導要領において、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」ことを目指す資質・能力を踏まえ、「知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等」を発揮して解く問題が求められている。共通テストでは、センター試験で課題とされていたそのような問題作成が今まで以上に求められたことも要因の一つだと言える。そのため、今回実施された共通テストの「英語」の問題の内容は、SNSでのやり取りやプレゼンテーション資料作成等、実際に高校生が経験し得る題材が多く、情報処理能力を問う問題に偏っている感はあるが、より実践的なコミュニケーション能力を測る、共通テストにふさわしい問題へと、センター試験時より近づけることができたのではないだろうか。

「韓国語」の問題も、センター試験とは異なり、語彙や文法の知識のみを取り出して出題するのではなく、対話文や長文の中で問う等の工夫をしてほしいという試験問題評価委員会からの指摘が採用され、一部、第3問の対話文や第4問の長文に、文法や漢字の知識を問う問題が出題された。しかしながら、第1問では、例年どおり、発音や文法、語法の知識のみを取り出した出題が行われた。文意を理解するための基礎学力として語彙力・文法力は不可欠であることは言うまでもない。しかし、センター試験の時のように、語彙・文法のみを取り出すのではなく、読解問題中で語彙力・文法力を問うことは十分に可能であると考えられる。語彙等の知識だけを取り出して問う問題が果たして、短い時間で、かつ、限られた問題数の中で、真のコミュニケーション能力を測る問題としてふさわしい問題なのか、今一度考えていただきたい。また、長文においても、ロジカルな文章を読む能力を問う問題を出す意図が見受けられるのは肯定的に捉えることができるが、分量や、語彙の使い方等文章の中身については再考の余地があると考えられる。今回の長文問題を改善していくための今後の対案として、本文の分量を3分の2程度にし、論考と純粋なエッセイや小説等での出題とし、長文問題をセンター試験の時のように、2問にしても良いのではないだろうかと考える。その結果、英語のように全体の語彙数が増えたとしても、文章の内容、設問の内容が明瞭で分かりやすいものであれば、問題量が増え、難易度が若干上がったとしても、生徒たちにとっては十分に解ける問題となるのではないだろうか。

「韓国語」は、本委員会及び問題作成部会が受験者層として想定している「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」ではなく、ネイティブやかなり高いレベルの生徒が受験していることはこれまでの結果により推測されるが、そのために、難易度を無理に上げる必要はないと思われる。これまでの評価委員会も、平均点のみで各問を評価することはしなかった。「英語」との平均点の差を気にする余り、極端に問題の難易度を上げたり、ネイティブの生徒が解きづらい問題を出題する必

要はないはずである。今回の共通テストでは、センター試験時に出題された第1問や第2問のようなネイティブの生徒が解きづらい問題は減ったが、未だ残っており、必要以上に難易度の高い長文と合わせて、今後の改善を要求するものである。

本委員会では、平均点を基にした評価は行わず、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度の基準として、中級水準となる、韓国語能力試験（TOPIK）のⅡ（3～4級）及び「ハングル」能力検定試験の3級～準2級、CEFR B1～B2 レベルを想定していることをここに明記する。

## 2 試験問題の内容・範囲等

本項目では、前文の「高等学校4～5単位を3年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、第1問及び第2問については、適切な問題とは言えない問題を中心に取り上げることとする。

### 第1問

#### A 発音に関する問題

問2の合成語による濃音化、及び、ハングル文字「ㅁ」の名称を問う問題だが、「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定」をより重要視した作問なのか、甚だ疑問である。「표기법」を[표기법]ではなく、[표기법]と発音しても、実際のコミュニケーションにおける意志疎通上の大きな支障とはならないと思われる。合成語による濃音化には例外もあり、濃音化せずに発音しても、違和感を感じるかもしれないが、全く通じないわけではない。例年指摘しているが、このような問題は、今後、出題されないことを切に願う。

#### B 適切な助詞、語尾、語彙を選択する問題

学習範囲内の語彙や文法であるが、その知識のみを問う問題の出題には疑問が残る。

#### C 類似した意味を問う問題

学習範囲内の語彙や文法であるが、B同様、その知識のみを問う問題の出題には疑問が残る。

第2問 比較的長い会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選んだり、会話文の内容を把握したりする問題

A 親子でテレビドラマについて話している対話文。以前は、2～3往復程度の対話文から出題していたものが、比較的長い対話文からの出題となり、出題の形式等、様々な工夫が見られた。

問1 対話文の内容を基に、テレビでの対話文を類推する問題。思考力も問う問題で適切な問題と言える。

問2 対話となる適切な文を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問3 韓国語は日本語同様、主語を必ず必要とする言語ではない。会話の内容から誰のことを話しているのか類推する問題。思考力も問う問題で適切な問題と言える。

問4 対話の内容を基に、これからの会話を類推する問題。思考力も問う問題で適切な問題と言える。

問5 本文の内容と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

B テレビニュース番組における天気予報コーナーでの司会者と予報士の対話文。比較的長い会話文の中で、語彙や文法の知識を問う問題の出題もあり、評価委員会の指摘が採用されたとと言える。

問1 同じような語彙の用法を選ぶ問題。以前から評価委員会の対話文や長文の中に文法問

題を入れて出題してほしいという要望が採用された。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問2 問1と同様に評価委員会の要望が採用され、対話文の中に文法問題を取り入れた問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問3 空欄に入る適切な表現を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問4 対話文の中から天気に関する情報を読み取り、その情報と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問5 本文の内容と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

第3問 今までは、1～2問程度しか出されていなかった図表やイラストを使用した出題が、第3問では全ての設問（計5問）において図表やイラストを使用し出題された。これも評価委員会が、図表やグラフ、イラスト、広告などから情報を読み取り解く問題を出題してほしいと要望していたことが採用されたと言える。

#### A 図表が何を表しているか読み解く問題

問1 月間スケジュールから情報を読み取る問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問2 韓国人が好む果物についての調査結果を表したグラフから情報を読み取る問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問3 韓国の小学生・中学生・高校生が将来就きたい仕事についての調査結果を表した表から情報を読み取る問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

B 観光客を対象に韓国の伝統服をレンタルする店の広告文を題材にしている。日常生活でよく目にする簡易な内容で、適切な文章と言える。以下に各問の内容を見ていく。

問1 数種類のレンタルパターンが提示され、それにかかる費用を計算し、最も高いパターンを選び出す問題。落ち着いて計算ができれば十分に解ける問題。

問2 課題文の内容と一致する文章を選ぶ問題。適切な問題。

C 飼い主の元からいなくなった猫の探索の協力をお願いする掲示文が課題文になっている。日常生活でよく目にする簡易な文章で、適切な内容と言える。

問1 「動かそうと」「汚れているかもしれません」という意味の適切な韓国語を選び文章に挿入する問題。適切な問題。

問2 掲示文に記載されている猫の特徴を読み取り、それに合うイラストを選ぶ問題。適切な問題。

第4問 統計学的な論考をベースにした長文問題。現在、社会の様々な場面で平均が使われているが、平均に依存して物事の価値を判断することの功罪と、今後どのように平均を使えば個々の個性を生かした社会を構築していけるかを論じた文章である。統計資料に普段から慣れ親しんだ学生であれば、筆者の趣旨を理解することが可能であろうが、それ以外の者には難解な文章である。本委員会は、以下の点でこの論考が共通テストの課題文としては問題であることを述べたい。まず第1に文中の使用用語、特に漢字語についてである。평균 수준 (平均水準), 평균의 표준화 (平均の標準化), 다차원의 관점 (多次元の観点), 맥락의 관점 (脈絡の観点), 코스의 관점 (コースの観点) 等の用語は、漢字語としての難易度はそれほど高いものではないが、文脈中の語彙の意味が極めて不明瞭で、前後の文章をよく読んで初めて理解できるものが多い。本委員会も何度も読み返して、ようやく理解できた。第2の問題点は、論理の立て方についてである。筆者は最後の段落で教育の評価の在り方について提言を行っているが、短い文章の中でこの結論を導き出すのであれば、事例や反例も教育に関するものに絞った方が良いと

思われる。「個性の尊重」「教育評価の多元化」を論じるときに、前半の段落の事例の紹介は、却って論点が絞りづらくなってしまわないかと思われる。読解力・思考力を問う問題が、新しい共通テストでは要求されているが、そういった面では適切な課題文であるとも言えるが、共通テストが対象とする生徒のレベル（4単位×3年間、CEFR B1～B2レベル）に合っているかどうかという点では、難易度が高いと同時に抽象度も高く、短い時間に読むエッセイとしては、適切ではないと言えよう。ただ、課題文の分量に比して問題の数が少ないという本委員会の指摘に応え、以前と比べ、問いの数が増えたことは評価できる。

問1 文中の漢字語と同じ漢字語を選ぶ問題。センター試験では、独立した問題であったが、課題文の中に挿入された。自然な設問で、今後もこの形式を望む。漢字語の難易度も適当。

問2 文中に適切な副詞を挿入する問題。適切。

問3 2種類（漢字語・固有語）数字表記の正しい使い分けを問う問題。適切。

問4 課題文中の文章、「この信頼が受け入れられることで」の後に続く文を選ぶ問題。正解は、「過度な競争社会が作られた」。適当な問題。

問5 文中の難度の高い用語に関する適当な説明文を選ぶ問題。深い読解力が試される問題。やや難易度が高いように思われる。

問6 下線部「このような主張」の内容として適当な文を選ぶ問題。正答は、「各個人の特性を生かすシステムを準備しよう」。適当な問題。

問7 文章の論理構成を正確に読み取る問題。ロジカルなエッセイを読み取る上で、重要なスキルである。「問題提起」「事例提示」「反論提起」「展望と提案」と言った根拠に基づいた論考を、生徒が様々な言語で書き進むためには、平素よりこの問いを念頭に置いておく必要がある。今後も同様の設問を望む。

問8 課題文の内容と合う文章を選ぶ問題。丁寧に読めば解ける問題。適切。

### 3 ま と め

最後に総括として、第4問の長文読解問題については再度言及しておく。以前のセンター試験に比べ、1つの長文に関する問いの数が増え、じっくりと文章を読むことができるようになっている。これは以前より、評価委員会が提案してきた事項であり、問題作成部会がこれを反映させてくださったことは、良い方向であると思う。また、第4問の長文以外の問題も、様々なコミュニケーションを想定した素材を扱っており、評価できると考える。可能であれば、第1問、第2問の問題形式も、「英語」の試験問題と同様に第3問以降の様々なコミュニケーション素材を扱った問題に挿入していただくのが良いと考える。

いずれにしても、今回の共通テスト移行に際し、多くの点での改善点が見られたことは評価に値すると思う。今後とも本委員会の評価を踏まえ、良質な問題を作成していただくことを希望する。

最後に、委員が勤務する高校の生徒（3年生、5名）に試験的に解いてもらった点数を以下に記しておく。思った以上に点数が高かったのには、正直驚いた。問題の分量が多く、難易度も高かったので、良くできて50%程度の点数ではないかと思ったのだが、純粋な学習者でも時間をかけてしっかりと学べば、今回の試験内容にも十分適応できることが分かった。生徒は、いずれも高校入学以降の学習者で、学力水準は、いずれも TOPIK 4～5級程度。A生徒 166点、B生徒 135点、C生徒 177点、D生徒 174点、E生徒 168点。

## 第2 問題作成部会の見解

### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しない。
- 教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。  
また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 問題作成に当たっては、CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。  
その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

### 2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果についての問題作成部会の見解を述べておく。

第1問は発音問題である。全体の難易度及び識別力はほぼ妥当であった。

Aは発音変化に関する問題である。問1は終声字母ㄹにㄱが続く場合の発音と、激音化の知識を問う問題で、問2は漢字音の濃音化と、히읃の終声字母ㅎが初声化する場合の発音変化の知識を問う問題だったが、問2の濃音化の問題の正答率がやや低かった。

Bは語彙・文法・表現に関する問題で、例年と同じく韓国語の表現の違いを問う問題も多く出題された。語彙に関する問題は、単にある語彙を知っているか否かを試すのではなく、具体的な文脈において動詞・形容詞や名詞・副詞などの単語が、他の単語とどのように共起し、いかなる意味を実現するかを問うものを出题した。文法の出題に関しては、偏りがないように配慮しつつ語尾や助詞の用法を問うものを出题した。表現に関する問題は、単語や句・節単位での類義表現を問うものや、一対一の直訳でない韓国語としての自然な表現を問うことに重きを置いた。全体的に、日本語母語話者にとり、学習の要点となる事項に重きを置いた出題となるよう心がけた。うち、問7については「가능하다」を形容詞でなく動詞と誤認したケースが見られた。

Cは類義表現に関する問題で、一つの表現を他の表現に置き換えることができるかどうかを問うた。単語や句・節単位での類義表現を問うものや、韓国語としての自然な表現を問うことに重きを置き、全体的に、日本語母語話者にとって、学習の要点となる事項に重きを置いた出題となるよう心がけた。問1と問2は正答率が高く、問3と問4は正答率が7割程度で識別力も高く、難易度は妥当であったと思われる。問5で「말이 많다」を「知人が多い」でなく「何でもよく知っている」と誤認したケースが見られた。

第2問は、日常生活でよく使われる表現を素材に、文脈に沿って対話を完成させる問題と、対話の内容を理解し状況を把握する問題を中心に、問題を作成した。全体的に使われている単語自体は難しくないが、状況を正しく把握する能力が要求される。

Aは親しい間柄（母と娘）での対話について、会話全体の流れや内容を理解しているかを問う問題が中心である。問1以外は、7割以上の正答率で、比較的高い正答率であった。

問1については、会話本文からドラマの中で交わされている会話の内容を推測するという、これまでの出題には見られなかった重層的な構造になっており、戸惑った受験者もいたか

もしれない。正答率は5割未満であった。

問2は、空欄補充問題で、会話特有の表現を問う問題であった。いずれも日本語の直訳では出てきにくい表現である。

問3は、主体が明示されていない文の主体を文脈から特定する問題であり、会話の流れが正確に把握できていれば相対的に易しい問いだと思われる。実際に、正答率も高かった。

問4は、会話のその後の展開を推測する問題で、父親への提案としてふさわしい発話を選ぶ問題であった。正答率は非常に高く、8割を超えていた。

問5は、本文の内容を正しく読み取って選択する問題であった。正答率は高く8割程度であった。

Bはテレビのニュース番組の天気予報コーナーでのやりとりについて、話の流れや内容を理解しているかを問う問題が中心である。全体的に正答率が高く、問4以外は7割以上であった。受験者にとって比較的易しい問題だったようである。

問1は、多様な意味・用法を持つ副詞等の使われた例文の中から、会話文に出てくる単語と同じ意味・用法のものを見つける問題であった。正答率は8割を大きく上回っていた。

問2は、用言（動詞・形容詞）の活用を問うもので、文脈に合わない形を選ぶ問題である。過去連体形が入るか推量・意志連体形が入るか、文脈上判断できれば難しくない。正答率は7割を大きく上回っていた。

問3は、空欄補充問題で、文脈から見て適切な表現を選ぶ問題であった。直前の文の意味が理解できれば正解できるようになっている。正答率は8割以上と高かった。

問4は、「(次週)火曜日以降の天気」について述べられたものとして適当な文を選ぶ問題であった。後続の発話全体をよく読まなければ正解するのが難しい。そのため、Bの中では正答率が低かったが、それでも7割を少し切った程度であった。

問5は、会話文の内容と一致する文を選ぶ問題であった。会話文全体をよく読み、選択肢とよく照らし合わせなければ、簡単には正解できない。しかし、それでも、正答率は7割を大きく上回っていた。

第3問 表やグラフ、案内文など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるか、といった点が肝要であるが、大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）に合わせた問題としては、難易度のバランスとともに適切な出題であったと考えている。

A 図表やグラフに書かれてあることを正確に把握し、韓国語で書かれた選択肢から最も適当なものを選ぶ内容一致問題である。まず問1は、スケジュール表を見て、その内容を正確に把握する問題である。学生の日常生活と関連性が高い語彙が使用されている。16日木曜日に先輩とのランチの約束があり、17日金曜日にパーマの予約がされている③が正解となる。問2は、グラフを見て、その内容を正確に把握する問題である。グラフでは、スイカの購入費用が52,720ウォンでブドウは63,441ウォンなので、正解は①である。問3は、表を見て、その内容を正確に把握する問題である。中学生と高校生は同じく教師が1位であるが、小学生の場合は1位が運動選手なので④が正解である。選択肢の文中にある単語を単にスケジュール表やグラフと照らし合わせるだけで正誤判断が可能とならないように問題作成時に配慮したが、Aは多くの受験者が正解しており、正確に読み取れていたようである。

B 案内文の内容を正確に把握する力が要求される問題である。韓国の伝統衣装である韓服のレンタルに関する案内文が素材となっている。問1は、料金計算が必要ではあるが、計算自体は極めて平易であり、むしろ提示されている様々な条件を理解するとともに、諸条件に合

う正解を導き出せるかどうかを問う問題であった。選択肢の内容に沿って料金を当てはめていくと、①34,000 ウォンが最も高くなり、これが正解となる。正答率は全体の平均と同程度であった。また、識別力も良好であり、結果として妥当な出題であった。問2は、本文の内容を正確に把握できているかが問われる内容一致問題である。⑤は必ずしもレンタルしなければならないわけではないが、試着料金が別途発生することが書かれており、⑥は案内文の注意事項に汚れた場合などに、修理費に関連する費用を要求することが書かれているので、⑤と⑥が正解となる。正答率は高く、両方とも正解したのはおよそ8割であった。

C 迷子の猫を探す張り紙を素材とした問題である。問1は、文章の前後関係を正確に把握し、文脈に沿って表現を完成させる力が問われる。①が正解となるが、理由や意図、過程の途中の意味、そして、可能や予想の意味を適切に判断し、組み合わせられるかが鍵となる。第3問の中では、難度がやや高かった。問2は、本文の内容を理解し、条件に合う正解を導き出す問題である。②が正解となるが、迷子になった猫の特徴である、しっぽの長さや星形の首輪といった情報を理解する必要がある。正答率はやや伸び悩み、6割程度であった。問3は、本文全体の流れや内容を正確に把握しているかを問う問題である。全体の平均と同程度の正答率であった。Cは、第3問の中では難度がやや高かったようであるが、総じて識別力が高い良問であった。

第4問 社会において「平均」とは何かについての文章を読み、その内容を理解する問題である。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題。昨年度までの大学入試センター試験にはなかったタイプの問題である。2問あるが、ともに正答率は高かった。

問2 前後の文をつなぐ接続詞(副詞)を問う問題。似た例の文を並べて後ろの内容を強調する②「심지어」が正答であるが、他の誤答を選択した解答も少なくなかった。接続詞の前後で対比的な意味を表す③「오히려」を選択した誤答が比較的多かった。

問3 アラビア数字で表記された数詞を漢字語で読むか固有語で読むかを問う問題。「20세기」は漢字語数詞、「2그릇」は固有語数詞である。正答率は8割程度と高く、漢字語数詞と固有語数詞の使い分けはよくできていたと言うことができよう。

問4 前後の文脈から判断して、入れるべき適当な文言を選択する問題。正答は①であるが、前後の文脈で学校生活に関して触れているためか、③を選択した誤答が見られた。

問5 (A)「다차원의 관점」、(B)「맥락의 관점」、(C)「코스의 관점」の具体例を選ぶ問題。(B)の正答①は8割弱と正答率が高かったが、(A)と(C)はそれに比べ正答率がやや低かった。抽象的な説明から具体例を的確に選択する必要がある問題であり、少々難易度が高かったものと見られる。

問6 指示語の内容を問う問題。下線部は3つの観点が反映された新システムの実現を主張するものであり、それは個々人の特性を記録するものであるため、④が正答である。選択肢は前の段落の内容についていろいろに言及しているものの、正答率は比較的高かった。

問7 文章の構成を問う問題。文章全体を俯瞰して、その構成を見極める読解力が必要な問題と言える。正答は②であるが、正答率が6割ほどとやや低かった。

問8 文章の内容を問う問題。文章全体の内容を把握していることが求められる問題である。

### 3 出題に対する反響・意見等についての見解

共通テスト初年度となり、より実践的なコミュニケーション能力を重視した問題とするために、漢字の読み方を単独で問う問題をなくすとともに短文を提示した文法問題を減らして、その代わりに

新しい形式としての実用問題を新設し、長文の中に漢字の問題や文法問題を組み込むなどの工夫を行った。そのため、高校の先生にも共通テストにふさわしい問題に近づけたのではないかという評価を頂いた。

しかし、第1問に関しては相変わらず発音や文法、語法の知識のみを問う問題であり、読解問題の中で語彙力・文法力を問うべきであるという批判があった。けれども、学習者にとって必要な文法知識を問うこともまた必要であるから、短文の中でそれを問うことにも意味があると考えられる。それらを会話文や長文においてのみ問うことには限界があり、発音や文法問題を組み込む必要性のために会話や長文の題材選びや問題作成に困難をきたすことが考えられるからである。よって、今後も発音や文法問題はなるべく文章の中に組み込む努力は続けるものの、第1問のような形式の問題は存続させざるを得ないのではないかと思われる。

濃音化などの発音問題は意思疎通上の大きな支障とはならないため出題しないでほしいという御意見があったが、教育的な観点から濃音化に注意を払わずに学習すると実際の会話で誤解を招くこともあり、正しく発音できることが、正しく聞き取る能力を育てるので、発音を問う問題も必要であると考えます。ただし、出題内容については特殊なものにならないよう精査する必要があります。また、最近若者の実際の発音に大きな変化が生じ始めていることもあり、発音問題を今後どうすべきか検討を要する。

長文問題は全体の分量を抑制しようとして一題に減らしたため、読解力や思考力を問う論説文のみとなった。1つの長文に関する問いの数が増え、じっくりと文章を読むことができると評価されたが、分量が多く、難解であるとの批判も受けた。題材や分量に関しては、今後も検討していく必要があると思われる。

そのほかの問題に関しては、おおむね学習範囲内の語彙や文法で適切な問題であるという評価を頂いた。また、高校入学以降の学習者にも十分解ける問題であると評価されたことは大変喜ばしい。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

#### 4 ま と め

共通テスト開始に当たって実用問題を取り入れるなど新たな取組がなされたが、まだ課題はある。実用問題については題材や形式について、様々な可能性がある一方で、大学入試の問題としてどこまで許容されるかという問題もあり、今後も議論していかなければならないだろうし、長文問題をどうしていくか、問題文を短くしたものを幾つか出題して、様々なジャンルの文章を出題できるようにするかも検討課題である。また、問題作成を経るうちにどうしても文章が長くなる傾向があるので、全体の分量に常に留意する必要がある。

使用語彙や文法項目については学習範囲であると評価されたので、今後もこの方針を維持していく。